

2020年度 就職先企業等に対する調査

(抜粋版)

調査概要

立教大学では、卒業生の就職先企業・団体を対象に「2020年度 就職先企業等に対する調査」を実施しました。結果の一部をご紹介します。アンケートにご協力いただいた企業・団体の皆様には、厚く御礼申し上げます。立教大学では、このアンケート結果をこれからの教育の改善に活かしてまいります。

調査目的：本学学部卒業生が備える学修成果や、さらに伸ばすべき能力等について、就職先企業等からの客観的な意見を聴取し、教育改革・改善につなげるための基礎的な情報を取得する。

実施時期：2020年10月16日～30日

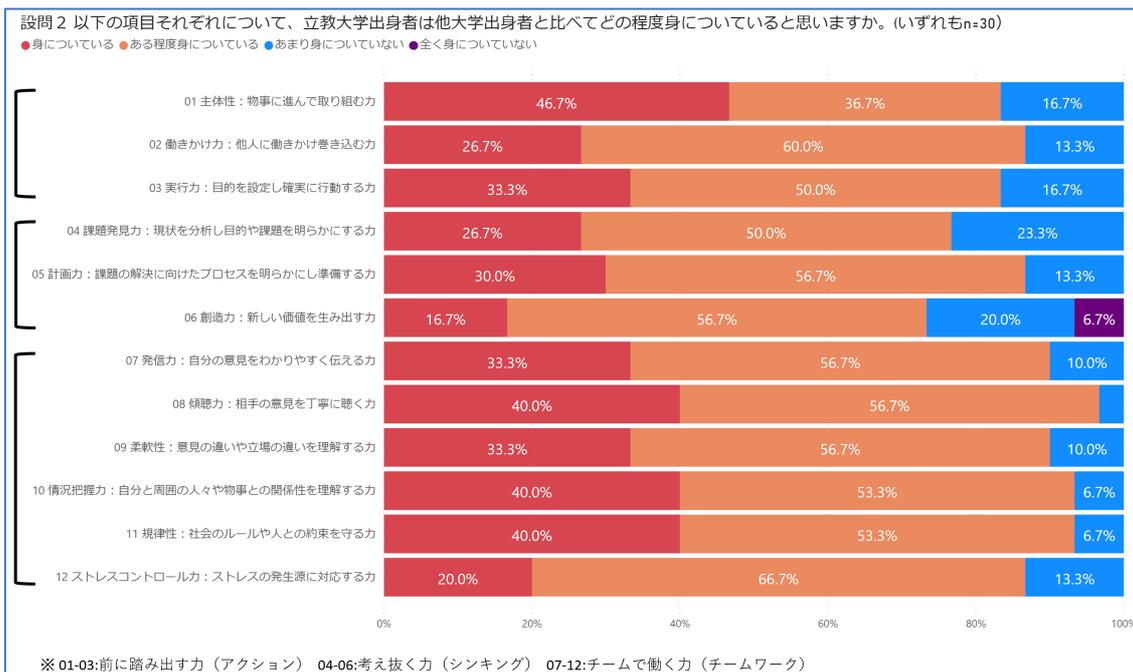
調査対象：学部卒業生の就職先企業・団体から就職者数等によって選定した55企業・団体

調査方法：Google Forms を利用したウェブ調査

有効回答率：54.5% (30件)

調査結果(抜粋)

経済産業省による社会人基礎力の3つの能力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）について、本学卒業生の修得状況を確認しました。他大学出身者と比べ、社会人基礎力は概ね身につけているとの回答が得られたものの、「考え抜く力（シンキング）」の創造力や課題発見力の修得の程度が他の能力に比べてやや低いことが示されました。



本学が設定する学修成果についての本学卒業生の修得状況および企業等での仕事における重要性を確認したところ、次のような結果となりました。学修成果について概ね身につけているとの回答が得られたものの、「英語で状況に応じた適切なコミュニケーションができる」の修得度合いが他に比べて低いことが示されました。この点について、今回の対象企業等の仕事においては「あまり重要ではない」「まったく重要ではない」との回答が60%であり、実務との関連についてはさらに多くの企業等から情報を取得する必要があると考えます。

調査対象企業等において、仕事にとって重要であるとの回答が80%以上の項目は、「06 自分の伝えたいことを人にわかりやすく説明できる」「07 周囲の人間関係にはたらきかけ、良好な状態にできる」「08 相手を尊重して、相手の意見や立場を理解できる」でした。これらの項目について本学卒業生は「身につけている」「ある程度身につけている」との回答が86.7%~93.3%で、重要とされる項目を概ね身につけていることが示されました。

